

第18回 夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ

—天気予報と数値予報—

主催 日本気象学会

後援 気象庁、東京都教育委員会、日本地学教育学会、
（財）日本気象協会

毎年開催し好評を得ました「新しい気象学」を本年も開催します。この講座は、新しい気象学の普及をめざし、主として小・中・高校の地学・理科担当教師を対象として行うものですから、特に教職にある方の多数のご参加を希望いたします。

記

対象 小・中・高校の理科担当教師および気象愛好者を主体とし、その他学生および一般の希望者。

受講料 一般8,000円、教員7,500円、気象学会員・日本地学教育学会員7,300円、学生7,000円
(受講料には教材費を含みます)

日時 昭和59年7月31日(火)12時(受付開始)
8月3日(金)16時頃(終了予定)

場所 東京都千代田区大手町1の3の4
気象庁講堂

但し台風来襲時には講堂の使用が不能になりますので、会場を他に変更することもあります。

申込先 (〒100) 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内
日本気象学会事務局
TEL. 03-212-8341 (内線 469)

申込締切 昭和59年7月20日まで

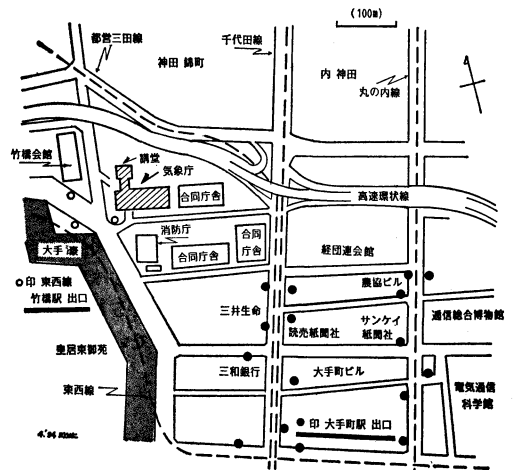
申込方法 次頁の様式の申込用紙に記入して申し込んで下さい。参加決定次第受講票をお送りします。ただし、定員に達し次第締め切ります。

受講料は、1. 現金書留、2. 郵便為替、3. 振替貯金(口座番号 東京3-5958、加入者名 日本気象学会)のうち適当なものを御利用下さい。

特典 受講者には、講義全内容の講義録を無料配布します。全講義出席者には日本気象学会入会の資格および入会金の免除、学会出版物についての便宜をはかります。

講義録 講義録のみ希望される方は代金を添えて必要部数を申し込んで下さい。1部1,300円、送金方法は受講料の送金方法に準じて下さい。なお、刊行部数が少ないので希望者はできるだけ早めに申し込んで下さい。

会場案内図



●会場への交通

地下鉄 東西線竹橋駅下車
もしくは

地下鉄 千代田線、丸の内線、都営三田線
大手町駅下車

第18回 夏季大学「新しい気象学」受講申込書

第18回夏季大学の受講を希望いたしますので申し込みます。

受講料は、1. 現金書留、2. 郵便為替、3. 振替貯金で送りました。

(受講料の送金方法1~3のいずれかを○で囲んで下さい。)

昭和 59 年 月 日

氏 名	年 齢	歳	職 業
自宅住所 (〒)	電 ()		
勤務先等 名 称 連 絡 先 (〒)	電 ()		

所属学会

..... 切り取り線

講 義 時 間 表

	午前 (10時~12時)	午後 (13時30分~15時30分)*
7月31日 (火)		数値予報発展の歴史 山岸米二郎 (気象庁・電子計算室) 数値予報は気象観測の充実、計算機の発達と共に発展して来た。歴史を回顧しつつ、数値予報の平易な解説を行う。
8月1日 (水)	天気予報の現状、そのシステム 草野 梓 (気象庁・子報課) コンピューターによる予想天気図が主流となっている現在の天気予報システムと予報官の役割を紹介する。	数値予報の最先端 佐藤信夫 (気象庁・電子計算室) 近年目覚ましい発展を遂げた数値予報の成果を、低気圧の発達を例にとって紹介する。
8月2日 (木)	大気大循環数値モデル 時岡達志 (気象研究所) 大気大循環モデルとはいかなるものか、モデルを用いていかなることができるのか、あるいは現在なされているのかを紹介する。	特別講演 予測・予知・予言 村上陽一郎 (東京大学・教養学部) 異常気象レポート 朝倉 正 (気象庁・長期予報課) 3月に気象庁は「近年の世界の異常気象の実態と長期見通しについて」見解を発表した。何を訴えているのか。
8月3日 (金)	衛星画像からみた大気中の諸じょう乱 加藤政勝 (気象衛星センター) 衛星画像に現れる大気中の諸じょう乱に伴う雲について代表的なもの及び特徴あるものについて述べる。	希望により気象庁の見学等を行います。 期間中 EPSON 社製「ひまわり画像受信システム SM-10」による受信の実演・展示を行います。

* ただし8月2日 (木) 午後は特別講演 (13時30分~14時30分)、異常気象レポート (14時30分~16時) となります。